

# 企画県土警察常任委員会資料

(平成23年10月7日)

- 1 「とりアート構想 中間とりまとめ」に係るパブリックコメントの実施について  
【文化政策課】 . . . 1ページ
- 2 河北省友好提携25周年記念事業について  
【交流推進課】 . . . 8ページ
- 3 「まんが王国とっとり国際マンガコンテスト」の実施について  
【観光政策課】 . . . 9ページ
- 4 第11回東アジア地方政府観光フォーラム（EATOF2011）の開催結果について  
【国際観光推進課】 . . . 10ページ
- 5 「関西広域連合・韓国トッププロモーション」の実施結果について  
【国際観光推進課】 . . . 11ページ
- 6 「上海ジャパンウィーク2011」への出展について  
【国際観光推進課】 . . . 12ページ
- 7 米子ーソウル国際定期便及び環日本海貨客船航路の平成23年度上半期利用実績について  
【国際観光推進課】 . . . 13ページ

文化観光局

# 「とりアート構想 中間とりまとめ」に係るパブリックコメントの実施について

平成23年10月7日  
文化政策課

県内の文化水準の更なる向上と文化活動の裾野の拡大を図るため、来年度で10年目を迎えるとりアート（鳥取県総合芸術文化祭）のあり方を見直す「とりアート構想」策定会議を開催し、「とりアート構想 中間とりまとめ」を作成しました。

ついては、中間とりまとめについて、広く県民の意見を求めるためにパブリックコメントを実施しますので、報告します。

## 1 これまでの経緯

- ・とりアートはこれまで鳥取県総合芸術文化祭実行委員会（以下、「実行委員会」という。）が作成した「鳥取県総合芸術文化祭の基本方針」（以下、「基本方針」という。）に基づいて実施されてきた。
- ・基本方針は23年度までの計画が定められているが、その後は未定となっている。
- ・とりアートは平成15年度の開始から来年度で10年目を迎えるが、本県の文化振興を取り巻く環境や文化芸術活動主体の状況も変化していることから、とりアートのあり方を検討し、「基本方針」に代わる「とりアート構想」を策定するための会議を平成23年7月、県に設置した。
- ・これまで5回の会議を開催して議論を重ね、「とりアート構想 中間とりまとめ」を作成した。
- ・県民が望む文化芸術イベント等について県民アンケートを実施し、中間とりまとめの参考とした。
- ・林田英樹県政顧問を当会議に招聘し、中間とりまとめ案に対する御意見をいただいた。

## 2 会議での主な意見

- ・「基本方針」は文章表現が抽象的で県民に分かりづらいものとなっている。
- ・実行委員会の役割分担が不明確である。
- ・鑑賞者が希望する企画の把握がなされていない。
- ・既存の文化活動者や教育機関等との連携が出来ていない。

## 3 中間とりまとめの概要

別添チラシのとおり

## 4 パブリックコメントの募集期間

10月7日（金）から27日（木）まで

## 5 今後の予定

- 11月上旬 「とりアート構想」策定会議での「とりアート構想」の策定
- 11月下旬 とりアート実行委員会での「とりアート構想」の議決

# ☆「とりアート構想 中間とりまとめ」☆

## 皆様のご意見をお寄せください

県では、とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）の今後のあり方を検討するため、とりアート構想策定会議において議論を進めています。

ついては、この中間とりまとめについて、県民の皆様からのご意見を募集します。

応募方法、問合せ先については、裏面をご参照ください。

### 「とりアート構想 中間とりまとめ」の概要

#### 1 事業目的


全ての県民が文化芸術に理解と親しみを持ち、自ら取り組むことで、心豊かで満ち足りた生活を送ることが出来るようになることを目指し、そのために必要となる人材育成を広範に行うことを目的とする。

#### 2 主催者、会期

- (1) 主催者：鳥取県総合芸術文化祭実行委員会、鳥取県
- (2) 会 期：通年

#### 3 事業構想

##### (1) 目標

県内の文化芸術活動の  

- ・裾野の拡大
- ・頂点の伸長
- ・円滑な遂行等のために必要となる、多様な人材の育成

##### (2) 内容

##### 【主催事業】

主催者が上記(1)の目標を達成するために以下の事業を実施する。なお、実施に当たっては、目標達成のために各事業が満たすべき基準を別に定める。

○各地区企画運営事業 ○メイン事業 ○人材育成事業 ○その他の事業

##### 【参加事業】

主催者以外の県内の文化芸術活動主体が行う文化芸術事業のうち、上記(1)の掲げる目標に寄与する事業。

#### 4 推進体制

- ・実行委員会、地区企画運営委員会を設置。また、それぞれの委員会には部会を設置し、効率的な運営に努める。
- ・鳥取県文化団体連合会等既存の文化団体、文化活動者との協働、教育機関等との連携を推進。

#### 5 事業評価、その他

- ・実行委員会は県に設置する評価委員会の指摘事項を受け、改善計画を作成。
- ・この構想は必要に応じ適切な時期に見直しを行う。

\*詳しい内容については、別添の中間とりまとめをご覧ください。

### ～とりアートとは～

とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）とは、平成 14 年に開催した「国民文化祭とっとり」の成果を継続し、さらに広めていくため、平成 15 年からスタートした、県民の皆様の手による文化・芸術の祭典です。

毎年秋、県内各地でステージパフォーマンス、ワークショップなど様々なジャンルの催しを展開しています。

[とりアートホームページ] <http://www.artsfriend.com/toriart/>



# 「とりアート構想 中間とりまとめ」 に対するご意見応募用紙

〈送付先〉

鳥取県 文化観光局文化政策課  
〒680-8570（郵便番号のみで届きます）  
ファクシミリ 0857-26-8108

ご意見記入欄

ご協力ありがとうございました。差し支えない範囲で、下記もご記入ください。

お住まいの 市町村		性別	
年代	<input type="checkbox"/> 10代以下 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代以上		

## 【応募方法】

郵送、ファクシミリ、電子メール、又は、県庁県民課、各総合事務所県民局、県立図書館の意見箱へ投函並びに、市町村役場のいずれでも応募できます。  
様式は自由です。（このチラシもご利用ください。）

## 【応募期限】

平成23年10月27日（木）※当日消印有効

## 【送付先】

鳥取県文化観光局文化政策課  
○住所：〒680-8570  
（郵便番号のみで届きます。）  
○電話：0857-26-7126,7235  
○ファクシミリ：0857-26-8108  
○電子メール：bunsei@pref.tottori.jp

## とりアート構想 中間とりまとめ

### 前文

文化芸術は人びとに生きる喜びをもたらすものであり、鳥取県民一人ひとりが様々な文化芸術活動を実践し楽しむことは、心豊かで活力ある社会の実現に資する点で重要である。

平成14年に本県で開催された国民文化祭の精神を継承し、発展させるために始まった鳥取県総合芸術文化祭（愛称：とりアート）はこれまでの9年間、県民に多様な文化芸術を提供することを目的として実施してきた。

今後は、こうした実績をもとに文化芸術活動の充実に不可欠な人材の育成を事業の核心に据えて取り組むとともに、県民一人ひとりがこの事業に主体的に関与し、生活の中に文化芸術を活かすことで、文化芸術を通じた地域の活性化と県民生活の質の向上に寄与するために実施するものである。

### 1 目的

当事業の実施を通じて、全ての県民が文化芸術に理解と親しみを持ち、自ら取り組むことで、心豊かで満ち足りた生活を送ることが出来るようになることを目指し、そのために必要となる文化芸術の人材育成を広範に行うことを目的とする。

### 2 名称、主催者、会期

- (1) 名称：鳥取県総合芸術文化祭（愛称：とりアート）
- (2) 主催者：鳥取県総合芸術文化祭実行委員会（以下、「実行委員会」という。）、鳥取県
- (3) 会期：通年とする。

### 3 事業構想

#### (1) 目標

- ① 県内の文化芸術活動の裾野拡大を目指し、県民誰もが気軽に文化芸術に触れ、楽しむことが出来るような、機会の提供を行うとともに、その充実を図る。
- ② 県内の文化芸術の質の向上を図り、頂点の伸長を目指して、県民ニーズに沿った良質な作品の提供を行う。
- ③ 県内の文化芸術活動の円滑な遂行とそのレベルアップを図るため、活動者（指導者、後継者、担い手を含む）、鑑賞者、アートマネジャー、技術者、支援者等の必要な人材の育成を図るとともに、その人材育成に必要な措置を講じる。また育成した人材を活用する場を作る。

#### (2) 内容

とりアートの事業は、以下のとおりとする。

##### 【主催事業】

主催者が上記（1）の目標を達成するために実施する。

なお、主催事業の実施に当たっては、目標達成のために各事業が満たすべき基準を別に定める。

#### ①各地区企画運営事業

- ・実行委員会は、県内の文化芸術活動の裾野拡大のため、誰もが気軽に親しめる事業を実施する。
- ・実施方式＝東・中・西部の地区ごとに事業テーマを決定し、それに基づいた企画を公募し、市町村等との協働により、様々な場所で賑わいを演出しながら事業を実施する。

#### ②メイン事業

- ・実行委員会は、県内の様々な分野の文化芸術活動主体の協働により、良質で創造的な舞台作品等を提供する。

##### ・実施方式

##### (ア) 企画

実行委員会は、県民が鑑賞を希望する文化芸術事業に関する調査を行い、その結果に基いた事業を事業実施地区委員会の意見を踏まえ、文化芸術活動者が提供できる内容と調整の上、企画する。

なお、過去の作品の再演も検討する。

##### (イ) 制作

実行委員会は、県内の文化団体等に事業制作を委託する。

##### (ウ) 開催場所及び頻度

会場は東・中・西部地区持ち回りとし、毎年度、実施する。

##### (エ) 準備期間

事業実施に際しては2年の準備年度を設け、各地区3年周期で実施する。

##### (オ) 当該方式による事業実施が円滑に行われるようになるまでの当分の間、2年に1度の事業実施とする。

#### ③人材育成事業

- ・実行委員会は、文化芸術活動を持続的に向上・発展させるのに必要な人材を育成する。
- ・実施方式＝講習会、ワークショップ、個別指導等を実施して人材育成を行うとともに、その育成した人材に事業実施を委託する等、文化芸術活動の実施に必要となる多様な人材を育成する場を設け、とりアート事業を中心としてその活用を図る。

#### ④その他の事業

- ・上記①～③の事業以外で、主催者が実施する事業のうち、上記(1)に掲げる目標の実現に資する事業。

#### 【参加事業】

- ・主催者以外の県内の文化芸術活動主体が行う文化芸術事業のうち、上記(1)に掲げる目標に寄与する事業を「参加事業」とし、とりアート主催者は広報等の協力、連携を行う。

#### 4 推進体制

上記の事業構想を実現するため、推進体制は以下のとおりとする。

##### (1) 実行委員会

県内の文化活動者、鑑賞者、学識経験者、マスコミ関係者等の公募による委員及び各地区企画運営委員会の代表者で構成する。実行委員会に以下の部会を設置し、委員はいずれかの部会に所属する。部会の役割は以下のとおりとする。また、必要に応じて、委員会内にプロデューサーを置く。

名 称	委 員 属 性	役 割
幹事会	各部長及び 各地区委員会代表	事業全体の総合的な情報共有等
メイン事業部会	文化活動者、鑑賞者、学識経験者、事業実施地区の企画運営委員会の代表	メイン事業の企画調整、委託先の選定、委託事務の進捗管理（質の管理も含む）、事業実施に際しての実施地区の委員会及び広報部会との各種連携等
人材育成部会	文化活動者（指導者）、学識経験者、教育関係者	人材育成・活用プランの作成、中高生を中心とする若年層が行う文化活動への支援、人材育成事業の実施等
広報部会	文化活動者、マスコミ、各地区企画運営委員会代表	事業広報の戦略の作成・実施、各種PRイベントの実施等

##### (2) 各地区企画運営委員会

- ・県内の文化活動者、鑑賞者、学識経験者、マスコミ関係者、教育関係者等から公募する。
- ・各地区委員会には部会を設置し、機能的で効率的な運営に努める。

##### (3) 広報

- ・広報部会が中心となり、訴求力のある広報企画及び適切なツール、時期を定める広報計画を策定する。
- ・県民への事業定着を目指し、多様な主体との新たな連絡会議の設置等も視野に入れ、効率的で効果的な広報を実施する。

##### (4) 連携

- ・県文連等既存の文化団体、文化活動者等との協働、教育機関等との連携を推進し、事業実施、人材育成において県内の様々な団体や個人と連携を行う。

##### (5) アートマネジメント

- ・社会と文化芸術を繋ぐアートマネジメントの重要性に鑑み、県及び実行委員会は文化芸術主体と良好な関係を構築・維持し、とりアートを円滑に実施できる体制を構

築する。

5 事業評価

実行委員会は県に設置する評価委員会の指摘事項を真摯に受け止め、指摘事項に対する改善計画を作成し、評価委員会へ提出する。

6 その他

この構想は必要に応じ適切な時期に見直しを行うものとする。



## 河北省友好提携25周年記念事業について

平成23年10月7日  
交 流 推 進 課

本年、河北省との友好交流が25周年を迎えることから、以下のとおり本県から訪問団を派遣し、河北省で記念事業を実施します。

### 1 記念事業の概要

- (1) 期 間 10月24日(月)～25日(火)
- (2) 場 所 中国河北省石家荘市
- (3) 行事等

#### ア 友好提携25周年記念行事(10月24日)

- ◇ 鳥取県文化財写真展・交流の歩み展開幕セレモニー(河北省博物館)
- ◇ 八頭高校書道部によるパフォーマンス書道披露(河北省博物館)
- ◇ 知事・省長会談(河北会堂)
- ◇ 河北省政府主催レセプション(河北会堂)

#### イ その他実施事業(10月25日)

- ◇ 鳥取県観光・教育旅行説明会  
石家荘市内の旅行社、教育旅行担当者、河北省旅遊局、河北省教育局を対象に鳥取県の観光PRを行い、ツアー造成を図る。
- ◇ 歴代河北省農業研修生との交流会  
過去に鳥取県が受け入れた農業研修生と意見交換する場を設ける。
- ◇ ゲートボール交流  
鳥取県ゲートボール協会と河北省のゲートボール団体が親善試合等を通じて交流する。
- ◇ 青少年書道交流  
八頭高校書道部が石家荘市内の高校を訪問し、同年代の生徒と書道等を通じて交流する。

### 2 訪問団(予定)

- ・ 知事団 平井伸治 鳥取県知事ほか
- ・ 議会団 伊藤美都夫 鳥取県議会議長ほか
- ・ 民間交流団 鳥取県日中友好協会、鳥取県ゲートボール協会ほか
- ・ 青少年交流団 八頭高等学校書道部

## 「まんが王国とっとり国際マンガコンテスト」の実施について

平成23年10月7日

観光政策課

個性あふれるまんが作品を発掘、顕彰することで、より多くの方にまんがに対して関心を持っていただくとともに、「まんが王国とっとり」を広く国内外に発信することを目的として、第1回「まんが王国とっとり国際マンガコンテスト」を実施します。

### 1 募集概要

#### (1) 募集作品

1コマ漫画、4コマ漫画、ストーリー漫画の3部門（いずれも未発表のオリジナル作品）

#### (2) テーマ

「海」

#### (3) 応募資格

年齢、国籍など資格制限は設けない。

#### (4) 応募期間

平成24年1月1日から平成24年3月31日まで

※募集告知は、平成23年10月中旬から開始予定

#### (5) 募集方法

別途作成する応募要領（日本語、英語、韓国語、中国語、ロシア語）により、以下の媒体、機会等を通じて幅広く募集する。

- ・インターネット（とりネット）、広報による公募
- ・アジアMANGAサミット運営本部を通じた公募
- ・まんが・アニメ関連イベント会場での要領配布など

### 2 賞

まんが家、まんが研究者等により、今後、組織する「まんが王国とっとり国際マンガコンテスト審査委員会」の審査により、全部門を通じて最も優秀な作品に「鳥取県知事賞（最優秀賞）」を、その他の優秀な作品に「優秀賞」等を以下のとおり授与する。

#### (1) 鳥取県知事賞（最優秀賞）：1作品

賞状、賞金50万円

#### (2) 優秀賞：2作品

賞状、賞金10万円

#### (3) 審査員特別賞：3作品程度

賞状、賞金5万円

#### (4) 子ども漫画家賞（対象15歳以下）：3作品程度

賞状、記念品（3万円相当）

### 3 その他

#### (1) 入賞作品の発表

平成24年9月頃

#### (2) 授賞式

平成24年11月開催の国際マンガサミット鳥取大会において実施

## 第11回東アジア地方政府観光フォーラム(EATOF2011)の開催結果について

平成23年10月7日  
国際観光推進課

- 1 期間 9月14日(火)～16日(木)
- 2 開催地 フィリピン・セブ州セブ市
- 3 各地域の参加者

参加地域(10地域)	主な参加者(参加者総数 約200名)
鳥取県(日本)	加藤礼二文化観光局副局長
江原道(韓国)	崔文洵(チェ・ムンスン)知事
吉林省(中国)	高飛(ガオ・フェイ)旅遊局副局長
中央県(モンゴル)	チェデブドルジ・エンフバト知事
ジョギジャカル特別州(インドネシア)	タズビル局長
セブ州(フィリピン)【主催】	グェンドリン・フィエル・ガルシア知事
サラワク州(マレーシア)	ダトゥク パティンギ副総理
クアンニン省(ベトナム)	ティ ホング リエン副省長
ルアンパバン州(ラオス)	サイサモネ コムタボオン副知事
シエムリアップ州(カンボジア)	ブン・タリス副知事

※沿海地方(ロシア)、チェンマイ県(タイ)は不参加

### 4 主な内容

#### (1) 代表者会議 [9月15日(水) 13:30～16:00、セブ国際会議場セミナーホール]

参加地域の代表による意見交換を行い、その結果をまとめた共同宣言文に署名した。

##### 【共同宣言の主な内容】

- ① 東アジアの観光産業は、現在、世界的な自然災害・政治的不安等の危機に直面しており、このような状況に適切に対応し、会員地方政府間で迅速に情報共有することで危機要因を早期に解消するために努力する。
- ② 会員地方政府の交流強化のため「大学生サマーユースキャンプ」、「公務員交流プログラム」及び「今年の訪問地プロジェクト」を継続的に実施するとともにEATOF運営予算からこれらの実施経費の一部を支援する。
- ③ EATOF恒久事務局の運営活性化と事業協力強化のために、各会員地方政府は可能な時期に職員をEATOF事務局へ派遣することとし、EATOF事務局と江原道は派遣職員の住居費及び生活費を支援することとする。
- ④ 江原道・平昌の2018年冬季オリンピック開催地決定と鳥取県の世界ジオパークネットワーク加盟のお祝い、クワンニン省とセブ州の世界7大自然不思議選定活動及び鳥取県の2012年国際マンガサミットへの支援など、各会員地方政府の事業に持続的に協力する。
- ⑤ EATOF祭りと学術貿易観光投資フォーラムを毎年EATOF総会で開催する。
- ⑥ 各会員地方政府で開催される貿易イベント、お祭り、博覧会、セミナー、商談会などに相互に参加し、観光分野の連携と交流を発展させる。
- ⑦ 2012年総会はカンボジア・シエムリアップ州で開催し、2013年総会はラオス・ルアンパバン州で開催する。

#### (2) トラベルマート[9月14日(水) 9:30～16日(金) 17:00、セブ国際会議場1階]

- ・各会員地方政府及びセブ州各市がそれぞれPRブースを設置し、来場者を対象に観光PRを実施。鳥取県では、山陰海岸ジオパークや国際マンガサミット鳥取大会などを中心にパンフレット配布や観光写真展示などを行った。

#### (3) EATOF祭り [9月15日(木) 19:00～21:00、セブ国際会議場大会議室]

- ・7地方政府の郷土芸能団体が参加し交流を深めた。鳥取県からは国府町の「因幡の傘踊り保存会」が参加した。

#### (4) 二地域間会談

本県は江原道及び吉林省の各代表者と個別会談を行った。

- ・江原道(崔(チェ)知事×加藤文化観光局副局長)  
国際マンガサミット鳥取大会と平昌冬季オリンピックを相互にPRすることを確認。
- ・吉林省(高(ガオ)旅遊局副局長×加藤文化観光局副局長)  
観光分野等における協力協定の締結に向け、今後、作業を進めることを確認。

## 「関西広域連合・韓国トッププロモーション」の実施結果について

平成23年10月7日

国際観光推進課

東日本大震災の発生以降、落ち込んでいる海外からの訪日観光の促進を図るため、中国トッププロモーション（7/20～7/22）に引き続き、韓国での関西広域連合トッププロモーションが下記のとおり実施されました。

- 1 訪問先 大韓民国ソウル特別市内の関係機関
- 2 期間 2011年9月18日(日)～20日(火)
- 3 参加者 山田啓二 京都府知事（連合広域観光文化振興委員）  
藤井喜臣 鳥取県副知事  
秋山嘉久 関西広域機構会長  
森 詳介 公益社団法人関西経済連合会会長  
福島伸一 関西国際空港㈱代表取締役社長 ほか総勢20名

### 4 概要

#### (1) 韓国観光公社訪問（9月19日 10:00～11:00）

- ・イ・チャム社長と面談を行い、訪問団から関西の安全性についての説明を行うとともに、文化遺産や自然景観など観光資源の魅力を伝え、相互の観光交流を進展させていきたいとの提案を行った。イ社長からは、韓国と日本とのお互いの発展には、観光をはじめとした相互交流による理解が欠かせないとの発言があった。
- ・藤井副知事から関空イン、米子アウトツアーの広域観光ルートなどによる観光PRを行った。

#### (2) 観光セミナー、レセプション（9月19日 18:30～20:20 ロッテホテルソウル）

- ・韓国旅行社や業界メディアなど約70名を前に関西の魅力や安全性についてアピールを行った。鳥取県については、山陰海岸ジオパーク、三朝温泉などを紹介。
- ・また、東日本大震災以降に撮影した風景写真により、普段どおりの関西の姿を紹介。

#### (3) 韓国文化体育観光部訪問（9月20日 9:20～10:00）

- ・モ・チョルミン第一次官と面談を行い、関西の安全性には問題ないことや、関西全体の魅力を伝えた。第一次官から韓国と日本、両国の観光を通じた交流が、お互いの国の発展につながるという発言があった。
- ・藤井副知事から鳥取県と韓国を結ぶ米子ソウル便、環日本海定期貨客船のPRを行うとともに、韓国からの送客について支援要請を行った。

#### (4) ハナツアー、世界旅行新聞社訪問（9月19日 13:30～15:30）

- ・鳥取県独自の活動として、韓国最大手の旅行会社であるハナツアー及び韓国旅行社向けの新聞を発行する世界旅行新聞社を訪問。
- ・藤井副知事からハナツアーに対しては、東日本大震災の影響でインバウンドが落ち込むなか、鳥取県への韓国からの送客について要請を行った。
- ・また、世界旅行新聞社に対しては、来年度開催されるマンガサミット等についてPRを行い、引き続き韓国国内での鳥取県知名度向上について協力を要請した。

## 「上海ジャパンウィーク2011」への出展について

平成23年10月7日  
国際観光推進課

中国への鳥取県認知度向上を図るため、上海市内で開催された「上海ジャパンウィーク2011」に下記のとおり出展し、観光PRを行いました。

### 記

1 期間 平成23年9月23日（金）から25日（日）

2 場所 上海外国語大学 松江キャンパス

### 3 出展概要

「まんが王国とっとり」をテーマに出展し、PRパネルの展示や観光パンフレットの配布等を行い、鳥根、岡山、広島各県のポスター、観光パンフレット等で広域的な観光PRを行った。（写真参照）

### 4 出展結果

- ・会場が上海外国語大学であったことから、大学生や若者が多く、約2万人の来場者で賑わった。
- ・鳥取県PRブースでは、多くの来場者が「2012国際まんがサミット」のチラシを持ち帰り、また、Tシャツなどの抽選会に長い列ができ、とくに「名探偵コナン」は大人気で、鳥取県の知名度向上が図られた。
- ・来場者から、「鳥取県の位置は?」「行き方は?」などの質問や、「松葉ガニや二十世紀梨などが美味しそう!」「是非行ってみたい!」などの感想が多く聞かれた。

### 【参考】「上海ジャパンウィーク2011」について

#### (1) 開催趣旨

東日本大震災の被害から力強く復興する日本の姿と、世界中の若者に絶大な人気を誇る日本文化の本来の魅力を、中国で最もトレンドな流行の発信地・上海から中国全土へ発信する。

#### (2) 主催

在上海日本国総領事館、上海市人民対外友好協会、上海外国語大学

#### (3) イベント内容

23日 オープニングセレモニー、アニソン・J-POPコンサート

24日 J-POPコンサート、東京カワイイコレクション、和太鼓等

25日 日本語カラオケ大会、コスプレ、初音ミクビューティーコンテスト等



# 米子-ソウル国際定期便及び環日本海貨客船航路の平成 23 年度上半期利用実績について

平成 23 年 10 月 7 日  
国際観光推進課

## 1 米子-ソウル国際定期便の利用実績

### (1) 平成 23 年 4 月～9 月の利用実績 (アジアナ航空山陰支店提供)

提供座席数	搭乗座席数	搭乗率	(注)下段カッコ内は前年同期実績
25,727席 (24,996)	14,690席 (14,687)	57.1% (58.8)	

(搭乗者の内訳)

日本人	韓国人	その他	計
10,711人 (72.9%)	3,793人 (25.8%)	186人 (1.3%)	14,690人 (100%)

- ・今年上半期の搭乗者数は前年実績とほぼ同数。
- ・日本人搭乗者数が 2,703 人の増となり、韓国人搭乗者数は 2,696 人の減となった
- ・アウトバウンドは、山陰国際観光協議会の利用促進対策や地元団体の積極的な利用により好調を維持したが、インバウンドは東日本大震災の影響により落ち込んだ

### (2) 平成 23 年 10 月以降の予約状況 (10 月 3 日現在)

10月…73.3% (前年同期 63.0%)、11月…45.5% (前年同期 40.8%)

## 2 環日本海貨客船航路(境港～東海間)の旅客利用実績

### 平成 23 年 4 月～9 月の利用実績 (DBS クルーズフェリー社提供)

日本人	韓国人	ロシア人	その他	計
962人 (1,506)	9,330人 (11,830)	1,032人 (1,709)	234人 (317)	11,558人 (15,362)

(注) 下段カッコ内は前年同期実績

- ・境港～東海間を延べ 49 (98) 便運航、1 便当たりの平均乗客数は 236 (157) 人  
(国別平均乗客数 日本人 20 人 (15)、韓国人 190 人 (121)、ロシア人 21 人 (17)  
その他 5 (3) 人 合計 236 人 (157) (注) カッコ内は前年実績
- ・今年上半期乗客数は前年実績に比べて約 3,800 人減
- ・平成 22 年 10 月以降の減便 (週 2 便→週 1 便) が前年比減少の主な要因と考えるが、震災以降ではあるものの、1 便当たりの平均乗客数 (157 人→236 人) は増えており、旅客利用は順調に推移している

## 3 下半期の主な利用促進対策

### 【アウトバウンド対策】

- ・韓国江原道で行われるキムチ漬けイベント参加ツアーなど旅行商品の充実
- ・冬季における割安な旅行商品の造成支援

### 【インバウンド対策】

- ・ホームショッピングによる温泉と食をテーマにした旅行商品の販売。(H23.10月下旬予定)
- ・個人旅行客向け情報誌(韓国語、中国(繁体)語、英語)の作成(H23.12月予定)
- ・島根県と連携した韓国ソウル市での観光情報説明会の実施(H24.1月～2月頃予定)